

いま、
中学生が
訴えたいこと

核兵器のない 平和な社会の実現を

8月15日は終戦記念日です。

町で実施している取組みの一部を紹介します。

核兵器のない平和な社会の大切さについて考えてみませんか。

東浦町非核・平和宣言

町は、常に平和を愛し、豊かで住みよいまちづくりに努め、平和行政を推進し、再び戦争の惨禍が起こることのないよう固く決意し、非核・平和を宣言しています。

ウクライナ・避難民への 支援を検討している方へ

●ウクライナ人道危機救援金

義援金は日本赤十字社愛知県支部で取りまとめ、被災地の方々の支援にあてられます。

▶義援金の受付

- ・振込先 日本赤十字社開設口座(郵便振替口座)

00110-2-5606 日本赤十字社

【注意】

ゆうちょ銀行・郵便局窓口で取扱いの場合、振替手数料は免除されます。通信欄に「ウクライナ人道危機」と記載してください。

- ・取扱期間 9月30日(金)まで

▶問い合わせ

日本赤十字社愛知県支部
東浦町分区
ふくし課 内線137

●ウクライナ避難民への県営住宅の提供

・対象

ウクライナ避難民の方

- ・入居期間 原則6か月以内

・免除費用

住宅使用料および敷金、附帯設備使用料

・問い合わせ

県住宅供給公社 賃貸住宅課
☎052-954-1361

戦争の悲惨さを後世に

非核・平和パネル展

戦争と原爆の悲惨さを伝えるパネル展を行います。核兵器のない平和な社会の大切さについて考えてみませんか。

- ▶と き 8月1日(月)～31日(水)

- ▶ところ 役場1階 ロビー、中央図書館

▶折り鶴回収ボックス

期間中、役場では平和への祈りを込め、折り鶴回収ボックスを設置します。折った鶴をお持ちください。回収された折り鶴は、非核平和事業の一環として広島市の平和記念公園内の「原爆の子の像」に献納します。

- ▶問い合わせ 総務課 内線245

戦争体験者へのインタビュー

町内在住の戦没者遺族へのインタビューを収録したDVD「おじいちゃんおばあちゃんたちの戦争 未来に残す宝物」。中央図書館で見ることができます。

▶DVDは貸出しもできます！

ふくし課、中央図書館、郷土資料館(うのはな館)で、DVDの貸出しも行っています。

- ▶問い合わせ ふくし課 内線137



見かけたときは
平和について考えよう



於大公園には、被爆クスノキ2世、被爆アオギリ2世が植樹されています。



役場前に非核平和宣言塔を設置しています。

青少年の非行の芽をつみ、心豊かでたくましい青少年を育てるためには、何よりも健全な家庭環境が大切です。町非行防止と青少年健全育成町民大会で「いま、中学生が訴えたいこと」をテーマにした中学生の意見発表がありました。発表された中学生の意見を紹介します。

●問い合わせ

文化センター

☎(03)9567



平和の光

西部中学校2年生 沢田 妃莉さん

なぜ人は、人を傷つけるのですか。

今も、何千、何万という人が戦争で亡くなっているのに。

2022年2月24日、ロシアとウクライナとの戦争が始まりました。その話を耳にしたとき、私の頭の中は、急に真っ白になりました。そのとき「え、どうして戦争をしているの」ということしか、私の言葉は出てきませんでした。私はただテレビの前に唖然と立ちつくし、そのニュースを眺めていました。でも、自分にとって一番ショックだったことは、自分が生きている中で、大きな戦争が起こってしまったことでした。自分の人生の中で、戦争が起きるなんて、誰も思ったり、考えたりしないことだからです。この世界は、すごく大切な「平和」という絆で結びついていて「戦争は絶対に起こらない」と私はずっと思っていました。

しかし、自分が思い描いていた世界の平和は、違ってい

ました。小さな子どもでも分かることなのに、どうしていい大人が、話し合いではなく、核兵器という凄く恐ろしいもので人々を威嚇するのかわかりません。罪のない赤ちゃんから大人までの大切な命を奪い、戦争に行きたくもない兵士を戦争に行かせ、人をいくら殺したって無意味で、何にも残りません。それなのに、なぜ多くの人が、つらい思いをしなければならぬのでしょうか。

ロシアの兵士たちは、自分が人を殺めてしまったことを心の傷として、これからも抱えていくでしょう。いくら自分の身体の傷がきれいに治ろうが、心の傷は他人の目にはどうしても見ることができません。また、その傷を癒やしたり治したりすることもできません。そんな深い心の傷を、ロシアの兵士たちは自分の手でたくさん作ってしまったのです。

ロシアとウクライナの戦争が始まり、私はニュースを見ようと、テレビをつけると、

戦場の様子が映し出されていました。私はある動画に心が苦しくなりました。そこには、私よりもっと小さい子どもが、泣きながら助けを求めています。その姿や声の様子は、日本にいる元気な子どもたちとは異なり、とても小さな子どもとは思えないものでした。私はその動画を見て、泣いてしまいました。私より小さな子どもたちの記憶に、こんなにも残酷な世界を残してしまっているよ、と「苦しいよね」と、届きもしない言葉を泣きながらつぶやいていたことを覚えています。

また別の日にニュースを見ていたら、日本に住んでいる、ウクライナのユーチューバーが、テレビに出ていました。その人のお父さんは、ウクライナに住んでおり、兵士としてロシアと戦わざるを得ませんでした。そのユーチューバーの言葉や声は、私にとつてとても悲しくて「助けて」と叫んでいるような感じがしました。その人のあの言葉が、今も私の心に刺

さり続いています。それは「頼むから本当に戦争をやめてくれ、誰のためにもならない。戦争なんか、いかなる理由でもやっちゃいけない。俺が変えてみせる。無理と言われても、戦争を止めるために戦うことに意味がある」というものでした。ウクライナとロシアの戦争を止めようと、必死にたくさんの動画を出しています。自分自身や現地の人、それに私たちにも呼びかけ続け、彼の言葉のどれをとつても、人を愛する言葉だと思えました。

私がこれまで生きてきた中では、大きな戦争はありませんでした。この世界の中から戦争をなくすことは、もしかしたらできないのかもしれませんが。しかし、世界中の人が、これまでの戦争の爪あとを見て学び、その残酷さと愚かさを理解すれば、戦争は、人がしてはいけないことだとわかるはず。こんな残酷な世界に、一筋の光が差し、平和が戻ってくることを、私は心から願っています。



読書はどうしたら興味をもてるのだろうか

北部中学校3年生 長岡 稜羽さん

皆さんは「若者の活字離れ」という言葉をご存じでしょうか。テレビや新聞で最近聞くようになった、という方もいるのではないのでしょうか。若者が読書をしていないことは30年以上も前から問題となっており、私の身のまわりでも読書を進んで行わない人はたくさんいます。

そこで、読書をしていない理由を友人や家族に聞いてみたところ、最も多かった意見が「時間がもったいない」ということでした。現代の若者の周りには、読書以外の娯楽があふれており、しかもそれらを簡単に手に入れます。SNSや動画視聴などが代表例であり、若者たちは読書よりもこれらの娯楽に楽しみを覚えるのです。また「読書をする意味が分からない」という意見もありました。これらの人は、そもそも読書を楽しむとらえておらず、苦行だと感じているのです。そこで私は、若者たちに読書を楽しんでもらう方法を

探すことにしました。

まず、学校で朝に行われている「読書タイム」という存在について考えました。先ほど読書を楽しみとらえていない人がいるということをお話しましたが、このような人は小学校時代から読書タイムによって読書を強制されてきたため、読書を宿題と同じように苦行、果てはトラウマになっている可能性があります。そのため、読書をするところを、辛い、苦しいと考える人がいるのではないのでしょうか。読書に興味をもってもらうために設けられた読書タイムで読書に嫌悪感を抱いては本末転倒です。そのため、思い切って、この時間を廃止し、別のことをするため、の時間に割り当てたほうがよいと言っている人もいられるかもしれません。

しかし、私はここまでする必要はないと考えています。なぜなら、私自身はこの読書タイムに少しづつ本を読むことで本の厚さから敬遠してきた「ハリー・

ポッター」シリーズを読破することができたからです。きっかけは親が映画を見ていた影響で、もともとこの作品に興味があったことです。また、今まで手をつけるのも億劫だった本を読むことができていたという満足感も読書を進めてくれました。だから、まずは読書に興味をもってもらうために、学校の蔵書のあらすじ辞典を作るのはどうでしょうか。様々なジャンルのあらすじを引用して載せることで、続きが気になる感情を引き出し、読書に興味をもってもらえるのです。読書タイムにパラパラと見てもいい、目に留まった物を読んでももらえれば、好きなジャンルを発見できます。

続いて、読書の時間をもつたいたいと考えている人に向けてですが、こちらは普段見ている動画などを上回るメリット、例えば、自分の知らない世界が広がったり、物事を客観的に見る能力が養われたりすることが周知できれば振り向いても

らえると考えます。例えば「図書館だより」のコーナーとして連載をし、1人ひとりに配付するという方法があります。そのことから、読書は時間の浪費ではないことが分かってもらえれば、進んで読書をする人も増えてくると思います。

ここまで読書をする若者を増やすための方法を話しましたが、いかがでしょうか。大事なことは「読書をする」と「そのものではなく「読書を楽しんでもらうこと」だと考えています。読書を楽しんでもらいたい、皆さんの知らない新しい扉をノックするだけでも価値があります。ぜひ一度、本を手にとってみてください。





周りの人たちから学ぶ

東浦中学校2年生 小野原 佳利茄さん

現在、私は勉強にも運動にも集中して取り組める環境にあります。それを与えてくれている両親にとっても感謝をしています。例えば、私の部屋を快適に過ごせるようにしたり、陸上の練習場へ送迎したりと、いつも私を支えてくれています。その車の中では学校のこと、友達のこと、進路のことなど、いろいろな話をします。進路の話では、自分の道は自分で決めればいいと言ってくれます。また、この世の中の人、全員が私のような環境ではないということや、いつも笑っている友達でも、誰にも相談できないような悩みをもっているということなども母自身の体験から話してくれます。

私の母は、子どものころの家庭環境があまりよくなくて、恵まれていた友達を羨ましく思っていました。その思いから、友達にきつく当たってしまったことがあります。それが、いつの日か自分がきつく当たられるようになり、逆につらい日々を過ごすようになりました。でも、泣いたら負けだと思い、必死で笑って耐えたそうです。

私は学校生活であつたことを家でもたくさん話します。ときには、話し過ぎて叱られることもあります。友人関係で悩んでいたことを話すと「他人は自分を映す鏡」で、「相手にしたこと」は全て自分に返ってくるのだから」と母は言います。あの子、苦手だなと思えば、相手も同じように思うものです。私の心の中にある思いがきつと無意識のうちに言葉や態度に表れるのだと思います。しかし、苦手意識のある友達を受け入れることは簡単ではないということ、私もよく知っています。ある日、友達とけんかをしたとき、たくさん話し合うことが大切なんだよと、両親が背中を押してくれました。おかげで、けんかした友達のことを嫌になりにかけるのを踏みとどまることができました。このとき学んだのは、相手の思

いを否定しないということ。意見が違つから嫌だと一方的に決めつけるのではなく、自分の意見や思いがあるように、相手にも意見や思いがあります。あの子はあの子、私は私、とお互いを認め合える関係をこれからもち続けていきたいです。これは友達だけではなく、先生方との間でも感じる機会が数か月前にありました。

私は生徒会の一員として活動をしています。その活動の中で、先生方と校則について話し合いました。話し合えば、生徒会側が先生方にいろいろと質問をしていくという方法で進みました。その中で、不要物の話になったとき、校則を決めていくルールがあることを先生は教えてくださいました。「学校は、生徒1人ひとりがそれぞれどうすればいいかを考えることを目指している。例えば、ツーブロックはだめだと決めつけるのではなく「奇抜な髪型」はだめだというように、ど

こまでが大丈夫なのかを自分で考えてほしい。先生たちは、全部の意見を否定する訳じゃない。自分たちで考えようという校則なのだから」との説明を聞いて、先生方が私たちのことを考えてくださっているということが感じられました。

とは言え、正直、親の話や先生方の話を頭では理解しながらも、ピンとこない自分があります。しかし「そういうえば、あのとき、こんなことを聞いた。あんな話をしてくれた」と思い返すことはあります。これから私も自身が、教科書に載っていない自分なりの答えを出せるように、たくさんの方の話を聞いていきたいです。また、疑問に感じたことは積極的に人に聞きにいこうと思っています。そして、自分の道は自分で決めればいいと言ってくれる父と母の言葉に応えるために、常に向上心をもって、今やるべきことを、地道に努力していこうと思います。